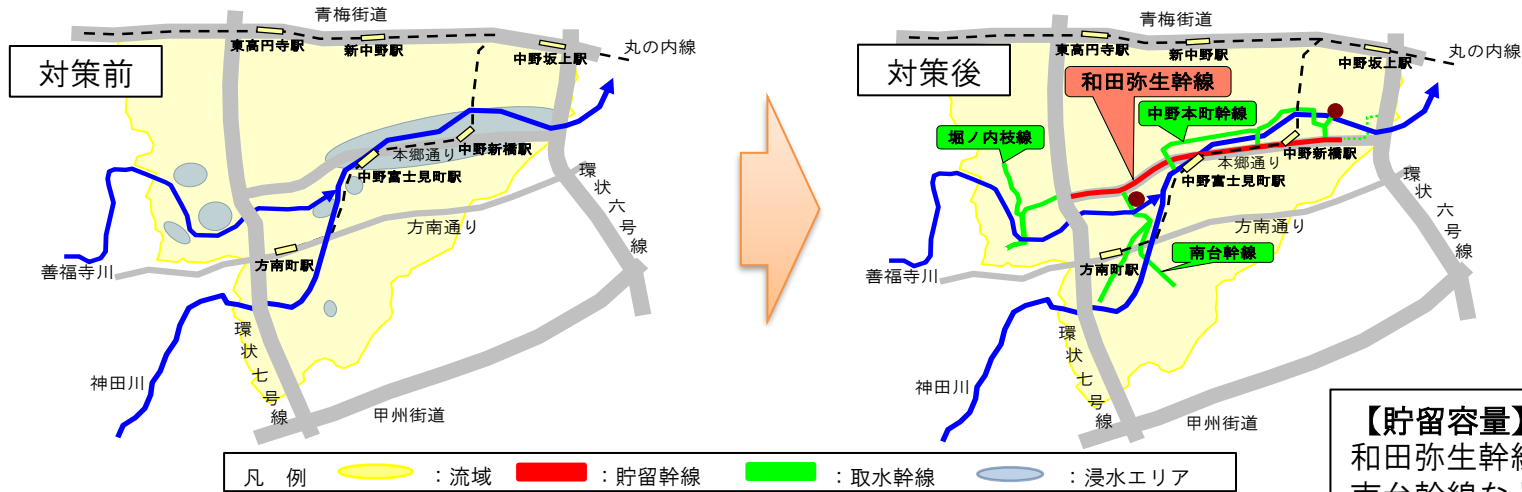


和田弥生関連幹線の整備効果事例

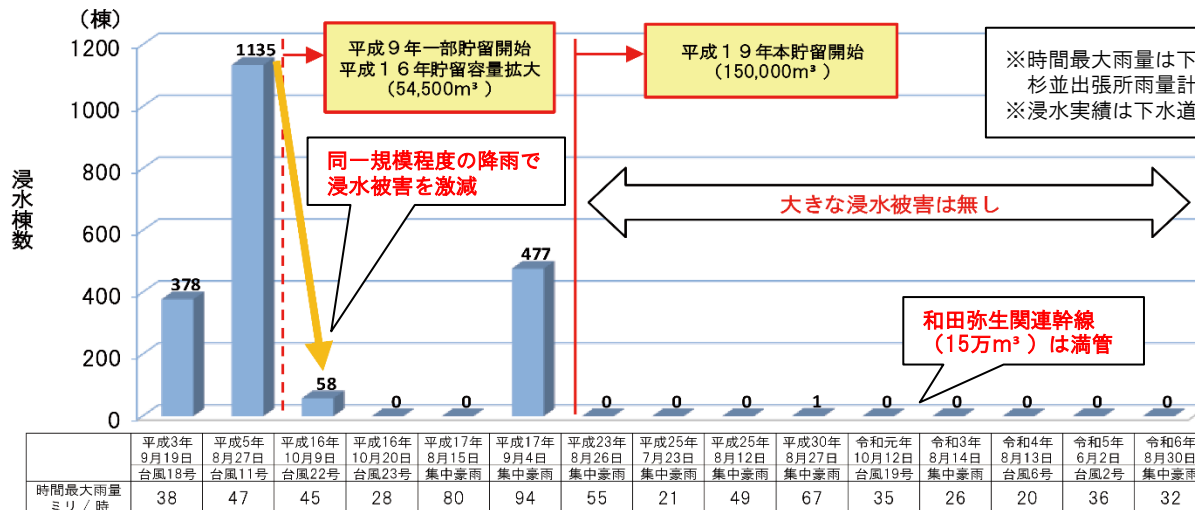
- 平成5年の台風11号により、大規模な**浸水被害が発生**
- 幹線や主要枝線を先行整備し、暫定貯留を行うことで浸水被害軽減効果を発揮
- 浸水被害が軽減し、浸水に対する安全性が向上

整備状況



【貯留容量】
 和田弥生幹線（12万 m^3 ）
 南台幹線など関連幹線（3万 m^3 ）

浸水被害状況



和田弥生幹線
 （貯留管：直径8.5m、延長2.2km）

効果

対策実施に伴い、浸水被害は減少